

# 愛は不可欠のもの

ギターとカルロス・デル・クエトによる話

グルマリーとのシッダ・ヨーガ・サツァング

聖バレンタインデーを祝って

2020 年 2 月 14 日 (金)

2020 年 2 月 14 日 金曜日、グルマリーとのシッダ・ヨーガ・サツァングが、シュリー・ムクターナ  
ンダ・アーシュラムで、聖バレンタインデーを祝って行われました。このサツァングを共同で司  
会したのは、SYDA ファウンデーションで共にスタッフを務める若い夫婦、ギターとカルロス・  
デル・クエトでした。以下は、ギターとカルロスが話したことを文書にしたものです。

ギター: おはよう、カルロス。

カルロス: おはよう、ギター。

ギターとカルロス: 皆さんに愛に満ちた素晴らしい朝をお祈りします。ハッピー・バレンタイン  
デー！

カルロス: ギターから聞いたように、私の名前はカルロスです。そして私の正式な名前は…カ  
ルロス・デル・クエトです。今日のような愛に満ちた日に——毎日が愛に満ちた日になり得るし、  
そうあるべきなのですが——このグルマリーとの「行動の中の愛」のサツァングの司会を務め  
ることを心から嬉しく思います。

ギーター:カルロスはとても素晴らしくありませんか。彼は確かに愛について語ることができます。

カルロスから聞いたように、私の名前はギーターです。そして私の正式な名前は…ギーター・デル・クエトです。私もグルマーイとの「行動の中の愛」のサツァングの司会を務めることを心から嬉しく思います。

知っていましたか。私たちがサツァングの司会を一緒にするのは、これが初めてです。

2014年オーストラリアのシッダ・ヨーガ・チャンティング・ツアー、「サッテャム、シヴァム、スンダラム」のセーヴァーをささげていた時に互いを好きになり始めてから3年半後の2017年に、私たちはオーストラリアのメルボルンで結婚しました。

それは、すべてのシッダ・ヨーギたちにとって、そして私にとっては特に、間違いなく素晴らしいチャンティング・ツアーでした。愛が行き渡っていました。

カルロス:本当にそうでした。

グルマーイの恩恵によって、あなた、ギーターが2014年のチャンティング・ツアーでセーヴァーをささげていたことが本当に嬉しいです。そしてまた、あなたはたまたま指揮者と恋に落ちました。グルマーイがその役割を私に務めるよう求めたことを、とても嬉しく思います。全くもってあなたは、グルマーイの祝福が私の人生で現れたものだとは思っています。ありがとう、ギーター。

ギーター:ありがとう、カルロス。もし誰かが、あなたはどんな人か今日私に聞いたら、私はこのように尋ねるでしょう。「サツァングに参加しましたか。あなた自身で目にしたでしょう」

先ほども言ったように、今朝は愛に満ちています。

カルロス:そうです、皆さんに、ハッピー・バレンタインデー！ 私の出身地であるメキシコでは、今日は「el día del amor y la amistad」として知られており、それは「愛と友情の日」を意味することを知っていましたか。私はこの呼び方を気に入っています。なぜなら、バレンタインデーに祝う愛は、恋愛に限らないことを示しているからです。それは、あらゆる形の愛を含むことができます。

例えば、ギターと私は、シッダ・ヨーガの実践も愛しています。そしてその実践から私たちがこれまで得てきた恩恵は、計り知れません。

今日、私たちはまずこの愛について、皆さんにお話ししたいと思います。

\*\*\*

ギター:私は、瞑想への愛について話すことから始めたいと思います。

グルマールが皆さんからの手紙を受け取っていた頃、私はいつも自分の瞑想の体験について手紙を書いていました。私は体験をグルマールに伝えることが大好きでしたし、グルマールもそれを読むのが好きだと話してくれました。ですから、今日、皆さんに話すテーマとして、これを選びました。

私が特に大切にしている、当時グルマールに伝えたその体験は、2016年のグルマールの誕生日の朝に起こりました。私は瞑想していて、内側へ向かっていくと、大きな真珠が現れ、私の口の奥に収まる体験をしました。私は少々困惑しましたが、瞑想を続けました。私は瞑想中によくしている、心の中での視覚化を行いました——それは私の意識の風景に開いている裂け目、

大いなる自己への入り口を想像することです。この裂け目は輝く光を発しています。そしてこの日、グルマーイの誕生日の朝、私がこれを見ると、ダイヤモンドが現れて光の中に浮かびました。私は自分をたしなめて、考えました。「真珠とダイヤモンド！ そんなうわべに気を取られて宝石のことを考えるのをやめなさい——ただ光の中へと降りなさい！」そして、私はそれを行い、瞑想を続けました。

その日の午前中に、ここシュリー・ニーラーヤで、グルマーイと共に彼女の誕生日を祝うシッダ・ヨーガ・サツァングが行われました。グルマーイは日の出について語りました。美しい月と太陽を見たことを表現して、こう言いました。地平線の上の空に…真珠を見て、それから…ダイヤモンドを見たのだと。グルマーイはこれを見た後で、世界に向かって投げキスをした、と話しました。

ご想像いただけたと思いますが、グルマーイがこう言うのを聞いた時、私は喜び、畏怖の念に打たれました。自分の瞑想中の体験がグルからの贈り物で、自分とグルマーイのつながりを確認するものだったのだと分かり、私はそっと自分を笑いました。

私が話したいもう一つの話は、その次の年、2017 年のものです。私はセーヴァーをささげるために、グルデーヴ・シッダ・ピートゥを訪れていました。その滞在中、私は少なくとも一日に 1 時間は瞑想するという誓いを立てました。私にとって毎日の瞑想の修行は、思い出す限りにおいて努力をしてきていて、その達成の度合いはまちまちだったものです。

毎日努力し、着実に瞑想して数週間が過ぎた後、何かが起こりました。私は瞑想することが楽しみになり、それを味わうようになり始めました。さらに数週間後には、何ということでしょう！ 私は瞑想を愛するようになっていくことに気づいたのです！

今日に至るまで、私は瞑想を友人のように知るようになり、瞑想に時間を取ると、愛がやって来るのです。私の瞑想への愛を育てているのは…瞑想であることを、私は理解するに至りました。一貫した修行は、切望を育み、愛を呼び起こすのです。

カルロス:瞑想への愛について話してくれて、ありがとう、ギター。

それでは、私の音楽への愛について話させてください。

2014年にオーストラリアでのチャンティング・ツアーで指揮者としてのセーヴァーをささげた後、シッダ・ヨーガの音楽への愛と尊敬は、以前にも増して強くなりました。オーストラリアを古里のように感じ、そしてオーストラリアの人々がチャンティングに込める心からの喜びと豊かさは見事なものでした。しかし、私が最も衝撃を受けたのは、サツァングで私が教えたこと——それらはすべて音楽とチャンティングについてのグルマーイの教えに基づいたこと——が、参加した人々を変容させる効果を持っていたことです。

チャンティング・ツアーの後、シッダ・ヨーガの音楽の歴史——バーバとグルマーイの音楽の遺産——をきちんと文書化することが、最重要であることに気づきました。この理由から、2014年、ツアーが終わってからちょうど1カ月後に、私はSYDAファウンデーションにスタッフとして奉仕することを志願しました。それ以来、とても幸運なことに、このセーヴァーをささげ、教えることを続けています

これから、私の音楽への愛が、どのように生まれたのかを話したいと思います。それは私が母国語を上手に話せるようになったのと同じ頃、36年前のことです。

私の音楽への自然な親しみは、持って生まれたものでした。よちよち歩きの頃には自然に音楽が好きになっていたと言われ、またそのかすかな記憶もあります。私の最愛の祖父は、彼自

身が偉大な音楽愛好家でしたが、私の音楽とのつながりに気づいて、それを熱心にかき立てました。私はわずか3歳か4歳でしたが、彼は私をよく自分の音楽室に連れて行き、私たちはただ座って静かに音楽に耳を傾けました。そのような配慮で、彼は私の音楽への愛を育み、そして私は、この贈り物に対して彼に永遠に感謝しています。

私は8歳の時に、音楽に対する愛は本当に自分の中にある——それは自分のものである——ということ、強く認識するようになったことを覚えています。家族との休暇中に、祖父は CD と CD プレーヤーを持ってきていて、その中には偉大な作曲家、ヨハン・セバスチャン・バッハの「ブランデンブルク協奏曲」がありました。その音楽はエネルギー、喜び、そしてダンスのリズムに満ちていて、私はこの旅の間、おおむねその協奏曲の一つに夢中になりました。一日に何回も、CD プレーヤーのある所にこっそり行き、それを何度も何度も繰り返し聴いたものです。そして聴くたびに、前回と同じくらい素晴らしかったのです。この喜びの体験はまさしく愛であり、聴き続けても減少するものではないことを、私は理解しました。それは決して尽きることはないのです。

私が音楽を聴く時はいつでも、その音楽が情緒的に陽気なものであらうと、あるいは時として悲しく苦悩に満ちたものであらうと、それは問題ではありません。結果は安らぎを伴った喜びの体験です。このようにして、音楽は私の友であり仲間であり続け、私はそれを愛しています。

私の人生におけるこの音楽への愛の意味について振り返って、私は 12 年前の 2008 年に指揮をしていたあるオーケストラのリハーサルを思い出しました。私たちは、私があらゆる音楽の中でも最高の瞬間の一つであると見なしている、特に美しい楽節を練習していました。音楽家たちに何をすべきかを説明する言葉を見つけようとして、私はこのように言っている自分に気づきました。「この楽節は、この人生における良いものと美しいもののすべてを伝えなければなりません」

そしてそれが、音楽への愛が私にもたらしたものです——何度も何度も、それは人生の良さと美しさの体験を私にもたらしてきました。

では、シッダ・ヨーガの音楽が、私の音楽との愛の物語をどのように形作ったかを話したいと思います。肝心なのは、私はピアノを弾いて育ったけれども、心の中で音楽家になったと感じたのはずっと後になってからだったということです。そしてそれは、ここシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムで起こりました。私が 19 歳だった 2001 年に、グルマリーが若者のためにプレモツァヴァ音楽リトリートを始めた時に、私はスタッフとして奉仕していました。この頃、グルマリーは私の音楽への愛と音楽セーヴァーに対する献身を知りました。私はまた、このリトリートが始まる前日にグルマリーに近づき、スタッフとして奉仕する期間を 1 年間に延ばしたいこと、そしてそれは私の大学の勉強を危うくすることはないと伝えたことを覚えています。私はグルマリーの祝福を求めました。彼女はほほ笑んで祝福を与えました。その瞬間に、グルマリーは私の音楽への愛を理解していると感じました。グルマリーが音楽部門の指揮者たちに私に指揮する機会を与えるように要請したのは、それから間もなくのことでした。

そしてそれは、私の人生のその時期、若者のためのプレモツァヴァ音楽リトリートに参加した後に、私はシッダ・ヨーガの音楽の原則を学び、それらを自分の音楽を作ることの中に組み入れ始めたということでした。

グルマリーの導き、教え、そして祝福を通して、音楽部門でセーヴァーをささげたことで、私は本当に音楽家になりました——つまり、音楽に奉仕する方法を学び、そして、自分自身の音楽を作ることを通して私が聴き手として受け取った愛、美しさ、良さの同じ体験にアクセスし、伝える方法を学んだのです。

\*\*\*

ギーター:ではこれから、オーストラリアに関することを皆さんと共有したいと思います。

私はグルマリーから、オーストラリアでの悲惨で壊滅的な大火災を知って以来、心が痛み続けていると聞きました。彼女の心はずっとオーストラリアの大地に向けて歌い掛け続けてきました。実際、オーストラリアは、そして本当のところ全世界が、報道機関の報告によると 15 億匹もの動物が死んだ喪失感を抱いています。

グルマリーは言いました。「この痛みは耐え難いです。この損失は耐え難いです。この状況は耐え難いです。しかし同時に、救いの手を差し伸べ、互いを支え合うことは、すべての人に困難を乗り越える強さを与えるでしょう。それはすべての人に、新しい世界を創造し、愛の光を輝かせる勇気を与えます。あなたの信念自体が最も薄い氷よりも薄いと感じられる時に信念を強く持ち続けることで、神の浄化の涙があなたに明らかにされるでしょう」

私はオーストラリア出身で幸せだと思います。またグルデーヴ・シッダ・ピートゥから来たことも幸運だと感じています。そして何よりも、シュリー・ムクターナダ・アーシュラムでセーヴァーをささげる機会があることを幸運に感じています。シッダ・ヨーガの道は私の人生であり、また私は、私に精神的な滋養を与えてくれるすべての国々を愛しています。さあ、それでは、オーストラリアの現状に光を当てたいと思います。

この6日間オーストラリア東部に豪雨が降り、30 件の火災が鎮火しました。

どの程度の降水量があったかという、この週末だけで大シドニー圏のダムは、2019 年の1年間に受け取ったよりも多い水を受け取ったのです。

現在、オーストラリア全土で 63 件の火災が発生しています。わずか2週間前、この数は 90 件でした。6週間前の1月3日(土)に、グルマーイとのサツァングがオーストラリアとニュージーランドにライブ配信される前には、火災の数は 290 件でした。

この祝福された天上の雨がオーストラリアの大地にその愛を注ぐ中で、干ばつの影響で土壌はそんなにも多くの水を吸収できませんでした。人々は洪水、強風、送電線の損傷、倒木といったあらゆる困難を経験しました。それらは控えめに言っても容赦のないものでした。

シッダ・ヨーギたちは、互いにグルマーイの愛、シッダ・ヨーガの教え、シッダ・ヨーガの実践を思い出させ合い、彼らの生活の中で何が起こっているのかを共有するためのグループをソーシャルメディア上で作りました。サンガムの強さが輝きを放ちました。

このコミュニティの支え合い、このサンガムの支え合いは、マハーラーシュトラ州でマカラ・サン克蘭ティの時に、「ティルグドゥ・ギャー、ゴードゥ・ゴードゥ・ボーラー」、すなわち「どうぞこれらのお菓子を受け取ってください、そして優しく話してください」と、人々が言うのを思い出させます。

この言い習わしの私なりの解釈は、こうです。あなたは誰かから助けられ、そして誰かを助ける。あなたは誰かを助け、そして誰かから助けられる。それが愛の輪なのである。

\*\*\*

カルロス:愛の輪について言えば、全員ではなくともほとんどの人が、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで 2020 年の「行動の中の愛」のグルマーイのアート作品に取り組む機会を得たと思います。

ギーターと私は、改めて一緒にそれを探究することにしました。それが愛についてだからだけでなく、今日のこのサツァングの司会と一緒にすることを知ったからです。私たちは、私たちが見たものを見、読んだものを読み、特にオーストラリアで起こっていることに照らして私たちが感じたことを感じて、とても感動し、深く感謝しました。

シッダ・ヨーガの道では、私たちは多くの祝祭日や吉兆な機会を祝います。それぞれのお祝いは、シッダ・ヨーガの修行に再び活力を与え、そして神への信頼を再び強くする理由を私たちに与えます。それぞれのお祝いが、グルへの感謝をささげ、そしてグルによって示された道に従い続けるための祝福を希求し、この世界での光の道しるべとなる理由を私たちに与えます。

今日、私たちは聖バレンタインデーを祝います——聖バレンタインデーの伝説が実際に起こったのかどうかについて、人々の意見は一致していませんが。それでも、確かなことが一つあります。このお祝いが内包し、もたらしているものが真実であり、それが愛だということです。愛は真実です。

グルマリーは真実の愛とは何かについて、とても明確な指示を与えてくれています。真実の愛は私たちの行動の中に表れます。

ですから、グルマリーが与えた愛を視覚化したもの——「行動の中の愛」——は重要だと思います。

人々は愛について語り、愛について書き記します。時には、愛を感じていると思っています。多くの場合、彼らは愛を与えていると感じます。

誰もが、彼らなりの愛の意味、彼らなりの愛の連想、彼らなりの愛の解釈を持っています。誰もが彼らなりの愛の物語と哲学を持っています。「愛」という言葉は誰にとっても、肯定的にも否定的にも多くの意味を持っているのです。

そしてもちろん、愛は人間だけに限られたものではありません。愛は動物の間にも見つけることができます。愛は木の中にも、木々の間にも存在します。それは土の中にも流れています。私は、グルマーイが、「呼吸するという行為がある所には、愛の力があります」と言うのを聞いたことがあります。

グルマーイのタイトルがとても重要だと私が言う理由は、それが行動を呼び掛けているからです。何か理論的で、抽象的で、形のない思考と連想の世界に愛をとどめ置いておく代わりにです。

ギーター:グルマーイは「行動の中の愛」というこのタイトルを与えました。それによって人々が、愛の本質をよりよく理解し、どのように愛をこの世界に顕現させ、どのように実現し、そしてこの瞬間と将来に、どのようにその恩恵を感じることができるかを、より良く分かるようにしました。愛が行動に移される時、それは人の感情の浮き沈みに影響されることはありません。

多くの場合、私たちは、愛は受動的なものであり、もし幸運だったら、適切な環境に生まれたら、適切な人に会ったら、愛がやって来て私たちに「起こる」ものだと考えます。でも、この愛の概念に固執して、私たちは無意識に愛を寄せ付けずにいるのです。

私たちは日常生活から愛を遠ざけてしまいます。

シッダ・ヨーガの道のウェブサイトを訪れ、教えで満たされているグルマーイの「行動の中の愛」を見ると、それはグルマーイからの招待であり、手招きであり、愛についての私たちの考え方を  
変える呼び掛けであると捉えることができます。

「行動の中の愛」には、いつも発見の要素があります。明らかにされるべき謎、発掘されるべき  
秘密、見いだされるべき多くの素晴らしい驚きがあります。

ただ、注意してください。クリックするたびにその美しさを吸い込み、教えを取り込むと、笑顔が  
どんどん大きくなり、さらに広がっていくことに気づくかもしれません。

カルロス:グルマーイは私たち皆への深遠な教えとして、「行動の中の愛」を与えていますが、  
私は、グルマーイがとても楽しい方法で愛についての教えを与えていることにも感謝したいと  
思います。グルマーイがしばしば「真面目な人」と呼んでいる私がそう言うのです。グルマーイ  
がそう言って私をからかう時に、ここにいる何人かの人はその場にいたかもしれません。グルマ  
ーイが素敵な冗談を言うのですが、私からは目に見える反応がありません。その冗談はすっか  
り私の頭を素通りし、まるでとても深刻な学者のように私はただ彼女を見ています。その冗談が  
全く通じなかったのです。そして、グルマーイは信じられないといった様子でこう尋ねます。「カ  
ルロス、いったいどうしてそんなに真面目なの？！」

グルマーイによって作り出されたそれらの軽快な瞬間に促され、私はしばしば自分自身を見て  
次のように自問してみようという気持ちになりました。「カルロス、あなたは本当にそんなに真剣  
でなければならないのですか。あなたのグルは、人生は楽しいということを教えていますよ」。こ  
のような考え方は、私に大きな進歩をもたらしました。そして、私は何かが楽しい時はいつでも、  
より自然に学びが得られることを発見したのです。

それで、それは「行動の中の愛」と似ていると思います。グルマリーは私たち全員にとって軽快な体験を生み出しました。そうすることで、グルマリーは、この最も深く、最も重要で神秘的な愛という美德が、同様に、軽妙で、喜びにあふれ、活気に満ちているということを、私たちが理解できるよう助けていると感じます。その結果、私たちは愛、そしてグルマリーの愛に関する教えに、この視点から臨むことができます。

2020 年の「行動の中の愛」のさまざまな画像を、何度も何度もクリックして、それをくまなく探索するにつれて、愛はあなたが手に入れられるものだとして理解できるようになることを願っています。愛はあなたが持ち続けるものです。愛はあなたが保つものです。愛はあなたが与えるものです。愛はあなたのパレットです。そしてさらに、愛を待ち、愛を望み、愛がやって来てあなたを選ぶのを期待することは、生産的でも有用でもないという洞察が得られるでしょう。それは利己的な概念が表に出ているだけです。

常に覚えておいてください。あなたには愛を生み出す力があります。愛を描く力があります。愛を分かち合う力があります。愛を広める力があります。そして、この愛は無類です。

2020 年の「行動の中の愛」に参加することで、愛の色が一つではないことに気づくようになってもらえればと思います。それは一つの感情ではありません。一人の人間ではありません。ただ一つのことではありません。愛は愛です。愛だけが愛を定義できます。そして、この愛は比類のないものです。

ギーター:子どもに「ありがとう」と言うことを教える時、愛は存在します。

カルロス:あなたが電車に乗り遅れたと気づいた時、愛は存在します。

ギター:「シュリー・グル・ギター」の朗唱のためにスワーデャーヤの本を開く時、愛が存在します。

カルロス:あなたが嫌いなズッキーニを一口食べる時、愛が存在します。

ギター:悲惨な話をあなたが聞く時、愛が存在します。

カルロス:あなたの親友が待ち合わせをすっぽかしたと知った時、愛が存在します。

ギター:誰かを助けることを考える時、愛は存在します。

カルロス:すべてが計画しなかったように進んでいる時、愛が存在します。

ギター:葉が小川に浮かんで穏やかに流れていくのを見る時、愛が存在します。

カルロス:海に行くのに最適な天気になると思ったのに、結局ひどく寒くなってしまった時、愛が存在します。

ギター:あなたが大義を支援するために寄付をする時、愛が存在します。

カルロス:ミュージックアンサンブルが指揮者に従うことを拒む時、愛が存在します。

ギター:あなたが瞑想のために座る時、愛が存在します。

ギーターとカルロス:愛が存在するので、私たちは自分たち自身でも、誰かと一緒にでも、やりたいと思ったことをすることができます。それは愛のみにより可能です。これが行動の中の愛です。そして、この愛は控えめです。

カルロス:ですから、愛が私たちの中に存在することを断言してみませんか。そして、愛が私たちの周りに存在することを肯定してみませんか。愛は周囲に存在し、愛は私たちの世界に存在するという確固たる信念を持っていませんか。そう、愛がここにある、という確信を持っていませんか。愛は私たちのためのものです。愛は既に私たちをその住みかとして選んだのです。

そして、この愛は謙虚さで満ちています。

SYDA ファウンデーションの執筆者の一人としてセーヴァーをささげているスタッフのイーシャ・サーデサイさんは、最近グルマリーが、かつてあるシッダ・ヨーギがダルシャンで、ミュージカル『屋根の上のバイオリン弾き』から「愛しているかい」という曲を歌ったことを話してくれた、と語りました。この歌の中で、ある夫が 25 年間連れ添った妻に、自分を愛しているかどうかを尋ねます。というのも、彼は妻が「愛している」と声に出して言ったのを聞いたことがないからです。妻は、彼の質問を最初はばかげたものとして却下した後、25 年間彼と一緒に暮らして、4 人の子どもを育て、家族の世話をしてきたのだと答えます。「それが愛でないなら何なのか」と、彼女は尋ねます。

このことから、私は愛を伝える方法は一つに決まっていないと理解しています。愛は特定の言葉や特定の種類の行為によって定義されていません。愛は、私たちがその表現として設定していきたいかなる特徴にも制限されません。

ギーター:ですから、私たちへの質問はこうです。愛を分かち合う時、あるいは受け取る時に、愛を体験するための正しい努力をするでしょうか。愛が私たちに向かってふわりと飛んで来る時、それを認識できるでしょうか。

もう一つ質問があります。これはグルマールが以前ある人に尋ねるのを聞いたものです。あなたは、この世界の人々、動物、そして植物が彼らの愛を伝えるさまざまな方法を、すべて認識する達人になることを考えたことはありますか。

驚くべき質問だと思いませんか。繰り返しましょう。あなたは、この世界の人々、動物、そして植物が彼らの愛を伝えるさまざまな方法を、すべて認識する達人になることを考えたことはありますか。

さらにもう一つ、皆さんと分かち合いたいことがあります。「行動の中の愛」というタイトルを与えることで、グルマールはまた、愛の体験は自分自身だけものではないという事実を私たちに気づかせているということです。愛は、私たちが受け取り楽しむだけのものではありません。愛を与え、愛を示す義務も同じくらいあります。この世界——七千もの言語が話され、何百もの宗教が信仰され、信仰と不可知論について何百万もの本が書かれているこの世界——を動き回り、それと関わり合う時、愛を体現する責任が同じくらいあります。果てしなく並ぶ料理が食され、常に新しい命が生まれているこの世界。暮らしの中で愛を認識するためになすいかなる前進も、その後私たちがその愛を他者に与える時、飛躍的にさらに価値あるものになります。そしてこの愛——それはあらゆる直喩や隠喩を拒みます。それは比類のないものです。

別の言い方をすれば、行動の中に愛があるためには、愛を私たちの世界の中でますます鮮やかに顕現させるためには、愛は動かされなければならないということです。

カルロス:愛。愛はあります。愛はありました。愛はいつもあるでしょう。

宇宙全体、この顕現した宇宙がそこから広がった、スパンダのその最初の鼓動の中に、愛はありました。

時を超えて、たくさんの文明の栄枯盛衰を経て、外と内の世界の浮き沈みを通して、愛は残ってきました。愛は持ちこたえてきました。愛はずっと不変のものでした。

ですから、愛はシッダ・ヨーガの道のここに 있습니다。それは今、グルの面前に 있습니다。愛は私たちのサツァングホールに、私たちの間の空間に、そして私たち一人一人の心の洞窟の中に脈打っています。愛とは偉大ではありませんか。あなたが愛に小さな空間を与えると——そのようにして——その軌道にやって来るすべてのものや人を変容させながら広がるのです。

私たちは今日、愛に喜び、愛をたたえ、愛と献身の数多くのラサについて学び体験し続けるために、グルマーイとのシッダ・ヨーガ・サツァングに共に集いました。私たちの愛をグルにささげ、私たちの理解の帆を再調整し、この世界でどのように愛を実行に移せるか——どのように軽快な愛の使者となれるか——を理解するために、私たちは敬愛するグルの前でサツァングに集まりました。なぜなら愛は不可欠だからです。

グルマーイ、私たちはあなたから、愛がいかに何も求めないかを直接学び、体験してきました。愛には何のアジェンダも、制限も、条件もありません。愛に唯一必要なものは空間です。そこにあるための空間です。成長し、花開くための空間です。愛を見て、感じて、聞いて、手にするための空間です。そしてあなたの愛のおかげで、グルマーイ、私たちは勇気を獲得し、自分自身の中にその空間を創り上げ、広げるための知識を手にかけています。あなたの黄金の教えと、あ

なたという輝かしい模範のおかげで、私たちはその空間をもっとこの世界へと導き入れる手助けができるのです。

ありがとうございます、グルマーイ。私たちはあなたを心から愛しています。



© 2020 SYDA Foundation®.著作権所有。